



市長と

車座トーク

第60回 瀬戸学区（概要）



開催日時 2018年（平成30年）3月29日（木）

19:30～20:30

開催場所 瀬戸公民館

参加者数 10人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・瀬戸町では、誰もが瀬戸町民であることを誇りに思い、住んで良かった、住み続けたいと感じられるまちづくりを進めている。町民意識調査によると、行事も多く、安心して住みやすいとの声がある一方、自治会の加入率低下などの課題がある。加入率向上のため、「地域力のあるまちづくりの推進」「地域の教育力が備わったまちづくりの推進」「リーダーの人材育成」を重点目標に掲げている。住民主体の地域づくりを進めていくためにも、予算的補助措置を可能な限り長く続けていただきたい。
- ・体育会では、町民と小学校との合同大運動会を始めとした各種行事を運営している。紹介したいのが、元旦に八幡神社から山岳公園までの約1kmの道程を登って初日の出を拝んで帰るといいう行事。幅広い年齢層の町民に参加していただいている。八幡神社では、みかんや雑煮を振る舞い、活動を通じて町民の輪が大きくなっているように思う。東京オリンピックでは、福山から世界で活躍する選手が出ることを期待しているが、市では、スポーツ施設や競技大会等についてどんなビジョンをお持ちか。
- ・老人クラブでは「健康寿命を延ばそう」をテーマに、サロン等の地域で行っている健康寿命を延ばす事業に参加することを推奨している。「見守り支援」という言葉は広範な意味を持つが、「見つける作

業」「見守る作業」「繋ぐ作業」の3つに限定すれば良いと思う。「見つける作業」は地域課題を見つけ民生委員に報告する。「見守る作業」は異常の報告を受けた民生委員が週1, 2回訪問して安否確認する。「繋ぐ作業」は民生委員が担当課へ連絡をする。これが地域の共生社会の第一歩だと思う。「見守り支援」という言葉は広義すぎるので、「見守る作業」の部分を指す言葉として狭義の意味で捉え、役割を決めてもらいたい。特に市の担当部局の中で「見守り」の定義付けをお願いしたい。

- 国道2号線から瀬戸町山北を通り、明王台経由で草戸へ抜ける道路では、朝夕の交通量が非常に多く、登下校する子どもにかなり接近する場面がある。PTAでも見守りも行っているが、運転マナーが悪く、ヒヤリとする場面が少なからずある。時間帯規制までは難しいと思うが何か対策をお願いしたい。
- 古い本を整理して新しい本を入れようということになり、中学生ボランティアと小学校に行ったが、すぐには処分できないので、段ボールに詰めて山積みになっている。処分方法について、何か簡単な方法があれば教えていただきたい。また新しい本を増やしていく対策があれば教えていただきたい。
- 教室での子どもの授業環境は、夏は非常に熱く、冬は非常に寒い。冷暖房完備とまでは言わないが、冷水器の配備や暖房対策などの工夫があれば、子どもたちが集中して勉強できるのではなかろうか。
- 学区子ども会は、地域の行事に積極的に参加し、子どもたちと地域とのつながりを深めたいと思う一方で、子ども会への加入が年々減っている。10以上あった子ども会も、現在4つになっている。役員となる保護者も共働き世帯や土日の勤務などが多く、休日の行事への参加も敬遠されがち。役員一人ひとりの負担感が強いので、子ども会への加入が益々敬遠されている。しかし、子どもたちは日々練習に励み、8月の市の大会ではソフトは4位で敢闘賞、3月の中国新聞社旗大会では、フットは6年ぶりの決勝進出を決めた。フットに関しては、年々加入が増えている。ソフト・フットをしていなくても子ども会に入りたくなるような活動をしたいとは思ってはいるが、活動資金・役員不足でうまくいっていない。活動を盛んにするために、例えば、活動を休止している子ども会を復活させ、盛り上げている地域があれば、意見交換の場を開いていただき、参考にできればと思っている。
- ボランティアの会は環境美化が活動の中心で、年2回ごみ拾いをしている。12月には会員と小・中学生の計170名で、瀬戸町のごみを拾った。猪ノ子川に土が溜まり、水の流れが変わり清掃が思うようにできなかったのも、土を除去して欲しい。また道路側の石垣が一部抜けているので見て欲しい。
- 自主防災協議会では毎年防災訓練を行っている。豪雨災害を経験し住民の意識が変わり、前は500人超の参加があった。豪雨災害では猪ノ子川の決壊による浸水被害や、土砂崩れ、瀬戸川の土手崩れ等が発生した。土手の改修は完了したが、いつ決壊するかと心配している。猪ノ子川には土砂や雑木等が多くあり、排水機増設等の課題もある。安心して生活できるよう、行政の力添えをお願いする。
- 豪雨災害の当日に避難場所が設置されたが、避難場所は中学校区に一つであるため、赤坂公民館に開設された。豪雨の深夜に赤坂公民館まで行くことができなかった約30人が瀬戸小学校に避難してきた。校長先生の計らいで体育館を利用できたが、今後も豪雨による浸水・土砂災害の心配はずっと続く。今回の経験から、豪雨による避難場所として高台にある瀬戸小学校を加えて欲しい。一時避難場所として一夜を過ごせるだけの備品があると、我々が住民の安心安全の活動をするのに非常に助かる。
- 交通安全協会瀬戸支部では、年に4回の街頭広報や、行事の交通整理等の活動をしており、交通安全活動を通じて意識向上に努めている。瀬戸町内で重大事故の起きやすい所は、国道2号線と沼隈道路。また、瀬戸町内は狭い道や曲がりくねった道が多く、カーブミラーがないと安全確認のできない箇所が多く、出会い頭の事故が多い。神島橋の渋滞の迂回ルートとして、半坂を通り赤坂バイパスの手前を抜けるコースでは、大型車両が通るとセンターラインをオーバーして右左折している。子どもの通

学時間帯に大型車両が通ると気をつけなければならない状態がある。それとは別に、瀬戸には市営住宅があるが、居住されている方々が路上駐車しているため、周辺の住民が迷惑することがあるそうだ。

- ・瀬戸学区福祉を高める会は、年2回の料理教室や、子ども料理教室、グラウンドゴルフ大会、囲碁大会、ふれあいいいきサロンの推進、おもちゃサロン、瀬戸福祉だよりの発行等をしている。事務局員の大半がボランティアの人達と毎週金曜日、瀬戸小学校の「放課後こども教室」に参加して見守りをしている。まちづくり推進委員会の主催事業では、ふれあいフェスティバル瀬戸、自主防災訓練、納涼夏まつり盆踊り大会、わくわく土曜クラブへ協力している。行事遂行で精一杯であり、行事のマナー化が課題だと思う。事務局員は16人いるが、選出地域に偏りがあることから地域全体のニーズが把握しにくい。また公民館の駐車場が狭く、JAに駐車し市道を横切る際、市道が轍で波打っていて躓くことがあり、事故につながりかねないので、定期的な補修をお願いしたい。
- ・公衆衛生推進委員会では、環境美化・健康づくりを中心に活動しており、毎年9月を「町内ごみゼロ運動月間」として全自治会で取り組んでいる。また芦田川の水質汚濁が中国地方のワースト1と言われてきたが、9年前から河川浄化チャレンジ月間を設けチャレンジシートの取組や家庭ごみを減少させる啓発を継続してきた。最近小学校児童や学校PTAの協力もあり励みになっている。昨年12月「第13回ふれあいフェスティバル瀬戸」で健康相談やミニ体力づくりを市や事業団に協力いただき実施した。がんの問題は、非常に大きな問題だと思うので、我々にわかりやすく啓発して欲しい。

<市長のまとめ>

- ・まちづくりについては、わかりやすい目標を立てて活動していただいている。やらされ感のある自治会運営は長続きしないというのが私の考え。今までは人口増の中で、自治会、女性会、子ども会などの様々な会を維持できたが、人口減少の中で、様々な会が各学区に要るのかという所から地域を再構築したいと考えている。新年度は有識者を招き、全国の事例も踏まえながら、まちづくりをどう再構築するか勉強する。できる限りの助成もさせていただきたいと思っているので、ご協力いただきたい。
- ・2020年に新総合体育館が完成すれば、本物のスポーツを観戦したり、健康づくりをしたりできる。また、国土交通省から「かわまちづくり計画」の認定を受けたので、河川敷を使うこともできる。新体育館、公園、河川敷を使い体力・健康づくりをして欲しい。体育館が新しくなれば、ローズアリーナの体育館機能との役割分担を整理する必要がある。プールも老朽化している。また竹ヶ端テニスコートも大規模な大会を開催できるよう再編に向けた思いがある。すごいなと思ったのが、元旦に八幡神社から山の上まで登る行事。三世代での取組が、今後の地域活動の基本のような気がしている。
- ・老人クラブの活動については、駅家町上山守でも見守りの取組を実施している。見守りの必要な方を訪問する際は、2～3人の人が行き話をしながら安否確認をする。ケアが必要であれば繋ぐという取組をしている。ただ、民生児童委員が今手一杯で大変であり、負担を軽減するために地域のボランティアと一緒に訪問して安否を確認しているのが上山守。同じく御幸は学区に50人位のボランティアの人がいて、民生委員と一緒に見守りをしている。瀬戸学区での取組は非常に整理をされている。
- ・子どもの登下校時の安全確保のために、何とか対策したいとお話だが、交通規制が必要な個所があるのかもわからないので、西警察署に今日の話をつなぎ、現地を見てもらうようお願いしてみる。警察と行政とでどういう役割分担ができるのか考え、子どもの安全を守っていきたいと思っている。
- ・図書館の処分の問題や蔵書を増やすやり方だが、図書館の廃棄については改めて担当の方からお話をさせていただく。本を購入する際、近隣の3～4つの学校が集まり相談して、仮に今まで同じものを20

- 冊ずつ買っていたのを違う本をそれぞれが購入し、貸しあえば80冊購入したと同じ。そうすると多くの本が限られた予算の中で読めるという思いを持っている。教育委員会の方で検討していく。
- ・PTAが設置している冷水器がある学校もあるが、予算の対象には冷水器は入っていない。市では、耐震化を加速させ、安全対策をやろうとしている所。また、トイレの洋式化についても急いでいる。しかし、空調についても考えないといけないということで、教育委員会に勉強を始めてもらっている。
 - ・子ども会の活動も、子どもがやりたいということになれば、保護者も参加するから、子どもが興味を持ち、やりたい活動ができればいいと思う。学区の中でソフト・フット以外の取組をしたいが指導者がいないということがあれば相談いただきたい。フットで加入率が増えた、決勝までいったと嬉しい話を伺った。子どもたちが「フットは福山が生んだスポーツ」ということを知れば、熱が入るかもしれない。今子ども会連合会の方をお願いして、女子ソフト参加枠を弾力的に見直してもらっている。フットが好きな子はフットを、ソフトが好きな子はソフトで活躍してもらおう。そうした取組で子ども会への参加の熱意が高まるかも。休止した子ども会活動が復活したような事例を調べて情報提供する。
 - ・県河川だから県に確認した。県は堆積している土砂を撤去する基準を定めているが、その基準では大丈夫ということになっているようだ。かつて災害に遭われた地区とすれば、気持が良くないだろうから、改めて県の方に伝えておく。少しでも安心をお届けできるようにしたいと思う。
 - ・一時避難場所の指定について、事前にあらかじめ指定されている避難場所に加えて、学区としては一時的な避難場所として瀬戸小学校を考えたいということ、担当課に伝えておく。それで指定避難場所に変えるという形をとらせていただきたいと思う。災害に遭われた地域の皆様の心配は、災害に遭われてない人にはわからないものがあると考えるので、対応したいと思う。
 - ・交通安全の話だが、問題点や課題をもう一度改めて整理したいと思う。カーブミラーがなければ危ない所も、場所を確認させていただき、把握をしたいと思うので、教えていただきたいと思う。警察を含め、地域と行政との合同点検が2年に1回あり、2018年度にも行われる。その中でも地域の課題意識をしっかりと行政と警察に訴えていただきたい。市営住宅の件だが、管理人に確認してもらおう。
 - ・轍のようになっている道路状況については確認している。他の地域からも色々な課題を受けているので、優先順位を考えて対応する。それから、活動、行事がマンネリ化しているという話を伺った。熱心に活動しているから、そう感じておられるのだと思う。社会福祉協議会が色々なテーマで出前講座を行っているのだから、それらを利用しながら、新たな取組を導入するという事も考えられる。また、地域ニーズにあった福祉活動をしたいという話も同様だからこそその課題意識。社会福祉協議会で設問の立て方とか、他の地域で活発に活動している取組についてもアドバイスさせていただきたい。
 - ・公衆衛生活動を熱心にご活動いただいております、これだけやっただけであれば、何の心配もない。がん検診については、我々も共通した課題意識を持っている。行政ががん検診受診率を高めるための取組をやる。その中で、瀬戸学区をモデル地域にしながら、受診率向上に向けた取組をしてもいいかな、と感じた。担当の保健福祉局の方にもぜひ瀬戸のことをお伝えしたいと思う。

<地域からのあいさつ>

市長から丁寧に答えていただきありがとうございます。瀬戸学区は各団体の情報交換を行いながら連携し、地域力のあるまちづくりや地域の教育力が備わったまちづくりを大きな柱としてこれからも頑張っていきます。今後とも学区の発展に一層のご指導を賜りますようお願いし、お礼のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。